

ヌアヌ・パリ展望台にて

今回のハワイ滞在中に2度ヌアヌ・パリを訪れた。1回目は雨と濃い霧に覆われ、横殴りの強風は前に進むことも出来ず、数メートル先は霞んで何も見えなかった。傘は全く役に立たず、寒さに震える最悪のコンディションであった。

しかし2回目は遠く海岸線から、その先の水平線まで見渡せることができた。手前には美しいゴルフ場が広がり、遠くにはハワイ大学の施設もはっきりと見える。風も比較的穏やかであったが、眼下の崖下を覗き込むと高所恐怖症の人には少々勇気のいるものであった。垂直に切り立った崖の高さは約900mもある。ここはコオラウ山脈の途中に位置する強風で有名なハワイを代表する観光地なのだ。



1795年ハワイ島から船隊と共にオアフ島ワイキキに上陸したカメハメハ大王の軍隊は、徐々にヌアヌ谷に攻め寄せこの地でオアフ軍を撃破した。ここはハワイ諸島統一を成し遂げた歴史的な場所であった。ただこの場所の地形からして多くのオアフ軍の兵士は逃げ場を失い、崖から身を投げ岩に打ち付けられて命を落としたとのこと。戦争のあまりにも悲惨な出来事を感じさせる場所でもあった。

古来人間は平和で人間らしく暮らす権利を持っている。人はそのために孜々として怠らず日々の営みを続けてきた。その生活基盤が予想だにせぬ、しかもほとんど関知しない次元からの「津波」のような衝撃によって翻弄されることがあっては決してならないと思う。撮影 2010年冬

